

CAR No.36

Beyond

スーパーFJ  
アルビレックス・レーシング・チーム

PRESS RELEASE

2011/4/24

スーパーFJ 富士チャンピオンレース 第1戦

田中選手NEWマシーンで挑む

Albirex-RT

- 4月22日 フリー走行 路面：ドライ 去年の12月以来の走行となるため、まずは体の慣らしと今年から乗るニューマシンの10Vの特性をつかむことから始めました。10VはKK-Sと比較してとにかくラクションがかけやすい点が印象的でした。そのため立ち上がりアンダーとなる傾向があり、コーナー進入～旋回中の姿勢作りがより重要になると感じました。乗り慣れていない中、used tireで自己ベストを更新できたので、new tireを履けば決勝で十分勝負できる手応えはありました。フリー走行後はミッションが入りにくいのでシフトノブの位置調整、シートベルトの調整などを行いました。
- 4月23日 フリー走行～予選 路面：ウエット ウエットの走行も初となるので、朝一のフリー走行で出来る限りマシンの特性を掴むように心がけました。予選は遅い集団に引っかかってしまい、ピットスルーでやり過ぎて再アタックを試みたものの、別の集団に捕まってしまう満足のいくアタックが出来ないまま予選を終え、11位/24台で決勝に挑むこととなりました。予選アタック開始位置の悪さが今回のレースの反省点でした。
- 4月24日 決勝 路面：ドライ スタートについては8割の出来で前車2台を抜くことができた。2週目100Rで前車と併走しながらのコーナーリング中に私の左フロントタイヤと相手右リアタイヤが接触しそうになり、アクセルを戻したところでスピンしながらアウト側に飛んで行きました。エンジンもストールし、追い上げを試みましたが15位がやっとでした。今回のスピンに関しては、相手の動き次第でスピンして当然の立ち位置をとった自分のミスでした。このミスは二度と繰り返さないよう、今後に生かしていきたいと考えます。

その他所感 今回、FCJ、F4と上位カテゴリーの走行を見ることが出来ました。印象的だったのはF4の関口選手。2位以下に大差をつけてのレースでしたが、コーナーの抜け方が他の選手と全く違いました。私のドライビングに対するイメージは2位以下の選手に近かったのですが、根本から見直す必要があると感じました。「短距離で車速を殺し、旋回速度を上げる。」基本的なことですが、関口選手はそれがより高い次元で行えているように見えました。※今年FCJに出ている平川選手も去年のS-FJ日本一決定戦でそのようなしていました。自分がやるべきは持久力、筋力UPと認識しています。

中村監督コメント 練習を重ね今年度は表彰台にあがるよう努力いたします。ご声援御願いたします。

Nankai Plan Co.,Ltd.



鈴木会計  
埼玉・川口  
<http://www.tknf.com/sds>

P PLUS

Moty's  
HYPER LUBRICANT TECHNOLOGY

SPN  
SPEED PARK NIIGATA